

事業所名

セントスクエア（児童発達支援）

支援プログラム

作成日

令和7年

2月

27日

法人（事業所）理念		発達上の特性や家庭の諸事情、園・学校での不適応等による様々な困難を抱える子どもに、心理的な支援・療育的な支援などを通じて自己肯定感を育み、日常生活を充実して過ごすことができるよう支援することを目的としています。また、職員との関係が将来的に自立・自律した社会生活のため自尊感情を高めていくことに寄与できるよう努めていきます。							
支援方針		子どもの権利と子ども個々の最善の利益を優先し、同時に子ども個々の意思を尊重することを前提に、生まれもった特性・家庭や園や学校の環境・子ども自身の心情の三つの関係性の中で当施設が支援できる内容を吟味していきます。 具体的には、生まれもった認知特性などに焦点をあてた療育・教育的個別指導、園や学校等の集団生活に焦点をあてた数名による療育的指導、園や学校に通えないなどのメンタルケアに焦点をあてたセラピーなどがあります。いずれの支援は5領域（健康生活、運動感覚、認知行動、言語コミュニケーション、人間関係・社会性）を考慮し子ども個々の状況によって重点課題や優先順位をもうけます。							
営業時間		月・火・木・金	13時	0分	21時	30分	送迎実施の有無	なし	
		水	10時	0分	19時	0分			
本人支援	健康・生活	不登校などの不適応ゆえに園・学校が楽しくない子どもは、抑うつ傾向やトラウマなどからくる健康・生活上の様々なリスクを抱えています。 日頃の体温測定などのほかに、表情や課題への取り組み状況から心身の状態を把握します。またすべての療育教育的取り組みの中に下記のマインドセットを取り入れています。 成功体験：自己肯定感を育み健康や生活に興味関心を向ける。 自己肯定感の育成：自己理解と認知的な歪みの修正。							
	運動・感覚	主に園や学校生活に必要な運動機能と感覚機能を中心に療育的な支援を実施。 微細運動：目と手の協応など識字・書字などに関わる眼球運動や手の巧緻性の向上。 感覚統合：姿勢の保持などに関わる前庭覚・固有受容覚による筋緊張の向上。							
	認知・行動	基礎学力と社会性に必要な認知機能を中心に療育的な指導を実施。 ワーキングメモリ：一時的な記憶容量の向上。 他者理解：非言語的な状況理解による行動統制や適切な言葉使いの向上。 注意集中：課題への取り組み、待つことや聞くことの耐性の向上							
	言語 コミュニケーション	基礎学力や社会性に必要な言語機能を中心に療育的な指導を実施。 言語：文字・数字の「読み」「書き」「概念理解」の向上。 語彙：「聞く」「話す」ことに必要な語彙量の向上。 コミュニケーション：状況に応じた「援助要請」「聞き返し」「質問」「感謝・謝罪」「応答」「説明」などの向上。							
	人間関係 社会性	扁桃体の過活動からくる不安の軽減。 集団活動：園・学校生活の不安の軽減。 過剰適応：「頑張り過ぎ」からくる過労やトラウマの軽減。 他者理解：興味や関心、共感、適切な関わり（言語や距離感など）の向上。							
家族支援		年三回の個別相談（療育内容、進学、園・学校生活など）。				移行支援		入学・進学に備えた生活指導や登校支援、学校等への直接支援（情報提供書などを含む）など。	
地域支援・地域連携		園・学校や他の支援施設・医療機関との連携：情報交換、情報共有、役割分担など。				職員の質の向上		<ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議（一回／週）。 ・心理や教育諸学会での研修会参加（3～5回／年）。 ・福祉や教育職による合同勉強会（4回／年） 	
主な行事等		クリスマス時期に職員からプレゼント。							